

太平洋地域における公正なエネルギー移行を通じた GX 推進に向けた 島しょ国リーダーによる政策対話

第 10 回太平洋・島サミット(PALM10)連携企画(予定)

日時: 2024 年 7 月 12 日(金) 日本時間 10:00-12:10(イベント 100 分、ネットワーキング 30 分)

会場: 国連大学エリザベス・ローズ会議場

形式: ハイブリッド(Zoom 経由)

参加登録: <https://www.undp.org/ja/japan/events/green-transformation-in-the-pacific>

目的:

太平洋地域におけるグリーントランスフォーメーション(GX)と気候レジリエンスを促進するため、国内政策の立案、国際社会との協力連携、南南・三角協力の果たすべき役割などについて、太平洋島しょ国および日本の政府関係者と民間セクターによる政策対話をパネルディスカッション形式で実施する。本イベントの議論では、国内に潜在するポテンシャルの有効活用、経済見通しの強化、国際協調・官民連携などをテコに GX を推進していくにあたっての政府のリーダーシップについて焦点をあてることとする。さらに政策対話を通じて GX の様々な側面について論じるとともに、登壇者それぞれの視点や意見の共有を通じ、第 10 回太平洋・島サミット(PALM10)に向けた機運を高めることを目的とする。

グローバルサウスの国々に蓄積された知見や好事例の共有は、太平洋の島しょ国の発展のために大変重要である。本イベントでは、日本政府の支援による取り組みを含む域内各国間の協力を取り上げ、それらの取り組みがどのようにそれぞれの国の開発目標の達成や環境・社会経済状況の改善に寄与しているかについて意見交換する。また、政策対話の内容を UNDP が今後太平洋地域における GX を促進し、エコシステムの構築を目的に活動を進めるために活用する予定である。

背景:

太平洋・島サミット(PALM)は、日本と太平洋島しょ国地域との長年にわたるパートナーシップに基づき、トップレベルの対話プラットフォームとして1997年に発足した。日本と太平洋島しょ国は PALM の枠組みを通じて連携を強化するとともに共通の課題に取り組んでいる。2024 年 7 月に実施される PALM10 は 3 年に一度実施される対面による首脳級会合である。気候変動や自然災害の影響は、すべての PALM 加盟国にとって共通の最優先課題の 1 つであり、極端な気象パターンや海面上昇などの問題は地域全体のコミュニティの暮らしを脅かしている。島しょ国の脆弱性は、限られた資源、狭い国土、化石燃料への強い依存などによってさらに深刻化している。PALM 加盟国は、気候変動によってもたらされた多くの課題に直面しつつも、多様な生態系を保護するだけでなく持続可能な生活を築くことで、多様な文化を向上させることを目指してきた。このような太平洋島しょ国・地域が抱く持続可能な経済を構築するという目標は、GX を加速させることで達成できると考えられている。

日本政府は GX の推進により温室効果ガスの排出量をゼロにするとともに、産業競争力を向上させ経済成長を促進することを提唱しており、国内で今後10年間の間に、カーボンプライシングなどの導入を含む約 150 兆円の GX(公的および私的)投資の達成を目指している。2021 年 6 月に開催された G7 サミットでは、当時の菅首相は 2021 年からの5年間で約 600 億ドルの支援金を提供する意向を発表し、同年 12 月の COP26 では、アジアおよびその他の地域での脱炭素化支援に約 100 億ドルを追加で提供する意向が岸田首相により表明された。日本は、UNDP の主導で全世界で実施されている「気候の約束(Climate Promise)」イニシアチブの主要な支援国であり、技術革新を通して「脱炭素化と気候変動への適応に貢献する」という理念に基づき、UNDP によるプロジェクトを通じて 28 の国と地域を支援している。UNDP は、2023 年から新たに日本政府の支援を受け、「[気候に対して強靱な発展及びネット・ゼロに向けた太平洋地域におけるグリーントランスフォーメーション推進計画\(太平洋島しょ国グリーントランスフォーメーション・プロジェクト\)](#)」をパプアニューギニア、サモア、東ティモール、バヌアツで実施し、島しょ国における輸送セクターの脱炭素化、再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの推進に取り組んでいる。

期待される成果:

本イベントには以下の成果を達成することが期待されている:

- 「太平洋島しょ国グリーンTRANSフォーメーション・プロジェクト」実施国および日本の政府代表と民間セクターとの対話によって、太平洋地域における GX を加速し、持続可能なエネルギー転換の実現を進める。
- 地域協力を促進し、政策対話から実践的な行動、データに基づく戦略、域内での GX 推進への変遷を実現する。
- ステークホルダーの協力のもと、「南南・三角協力」とパートナーシップの可能性を掘り下げる。

プログラム(案)(6月14日現在):

2024年7月12日(金) 10:00-12:10(日本時間)
 総合司会: UNDP 駐日代表事務所 パートナーシップ専門官 横田未生

09:30-10:00	登録受付(会場内: Weather Kids ビデオの上映)
開会の辞:	
10:00-10:03	祝辞 外務省代表 (調整中)
10:04-10:08	開会挨拶 カニニ・ウィグナラジャ 国連事務次長補 国連開発計画(UNDP) 総裁補 兼 アジア太平洋局長(ビデオメッセージ)
第1部: 基調講演とビデオ上映	
10:08-10:13	太平洋地域の GX に関する UNDP 制作ビデオ上映(5分)
10:14-10:29	基調講演「カーボンニュートラルに向けたエネルギー転換のための総合的なアプローチと国際開発支援(仮)」(15分) 田村 堅太郎 公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES) プログラムディレクター
第2部: ハイレベル政策対話 「私たちの望む未来ー太平洋地域における GX 転換への変革的シフト」	
10:30-10:32	登壇者紹介
10:33-11:18	パネルディスカッション セッションモデレーター: 山本晃子 UNDP 環境エネルギーチーム アジア太平洋地域チームリーダー パネリスト: <ul style="list-style-type: none"> ・ パプアニューギニア政府代表(TBC) ・ サモア政府代表: Mr. Kalavini Shalom Maualaivao, Assistant Chief Executive Officer, Transport and Infrastructure Sector Coordination Division, Ministry of Works, Transport, and Infrastructure ・ バヌアツ政府代表: Mr. Antony Garae Liu, Director, Department of Energy, Ministry of Climate Change and Natural Disaster ・ 日本の民間セクター代表(TBC) ・ 環境省代表(TBC)
11:18-11:30	質疑応答
閉会の辞:	
11:30-11:35	環境大臣 伊藤信太郎
11:35-11:40	UNDP 駐日代表 ハジアリッチ秀子
11:40-12:10	会場内にてネットワーキング

予想される聴衆

- 太平洋 GX 国およびその他の PALM10 メンバーの政府関係者
- 開発支援関係者(UNDP、開発パートナーなど)
- 日本の民間セクター
- 教育関係者、学生